

令和 5 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム 小本

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000070		
法人名	介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム 小本		
所在地	〒027-0421 岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野285		
自己評価作成日	令和5年8月4日	評価結果市町村受理日	令和5年12月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 徒歩数分の場所に三陸鉄道小本駅や三陸縦貫道小本インターが有る。</li> <li>● 施設周辺の散歩が日課にしている。利用者様の希望を取り入れて、月1回のペースでドライブを計画し外出の機会を作っている。</li> <li>● 1階に食堂や浴室など生活スペース、2階は居室になっているため昼夜の区別をつけやすい環境となっている。</li> <li>● 近隣の方から農作物や山菜などの差し入れを頂くことが多く、それを使った季節感のある給食を提供できている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩泉龍泉洞インターの近くに位置する事業所は、小規模多機能センターと隣接し利用者同士が交流し、緊急時等の協力体制も整っている。会社の理念の「こころやさしく」に沿って運営され、建物内は明るく清潔感にあふれ、ほのぼのとした雰囲気が広がっている。食事は旬の食材を活かした手作りで、入居者と職員と一緒に楽しんでいる。新型コロナウイルスの影響で一時、分散食事を強いられたが、再び一緒に食事を摂っている。防災訓練は隣接する小規模多機能事業所と協力して行い、水害や津波などの災害に備え、適切な避難場所や方法について話し合いが行われており、地域の企業や住民との協力体制も整備されている。町でも規模の大きい協力医療機関は、24時間体制で患者への対応を行い在宅療養支援や訪問診療を提供しており、重度化対応の心強い体制となっている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月16日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : あお空グループホーム 小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は企業理念を理解し『こころやさしく』接している。	会社が示す「こころやさしく」という理念を掲げ、日常業務でそれを実践している。管理者はその都度指導するし、委員会などで言葉遣いなどをテーマに実際の場面を振り返っている。来春の理念見直しも検討されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練や会議に参加し緊急時に利用者様が支援を受けれる関係作りが出来ている。お祭りや打ち上げ花火等の行事がある時は、お誘いや声掛けをいただいている。	当地区内や近隣地域に住む職員が多くおり、日常的に散歩や買い物などを通じて地域住民と交流している。近くの役場支所内には地域振興協議会が在り、催し物が有れば便宜を図っていただくことがある。地域の防災訓練や会議に参加して連携をとっており、緊急時には協力をいただける関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症予防のため自粛しているが、地域主催行事・学校行事時見学への参加予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告・困難ケースの相談・地域のことなど、多様な意見交換が出来ている。	書面会議又は集合の会議を隣接の小規模多機能事業所と共同開催している。会議では、利用状況の報告や事故報告を行い、地域での困りごとの相談を受けたり、防災対策の意見をいただいている。話し合いを契機に津波襲来時の避難先を変更している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町担当者が出席している。電話やピーちゃん電話を使い気軽に相談や報告出来る体制も出来ている。	メール、固定電話、TV電話を使い、町の担当職員と相互に情報の交換をしている。介護保険情報等はメールで受け取り、疑問がある場合にはTV電話で問い合わせしている。災害時には、役場からTV電話や固定電話で安否確認がある。処遇困難ケースの相談についても、役場職員は協力的に対応してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の行為について理解している。毎月身体拘束廃止実行委員会を開き、身体拘束の有無やそれに繋がる行為の有無を話し合っている。現在も日中は玄関の施錠をしていない。	身体拘束を禁止し、その方針を契約書に記載している。夕方に外に出ようとする利用者や炎天下に歩き続ける利用者の行為の背景について話し合い、その後の関りに活かしている。利用者の変化については家族に報告を行い、病院への相談等を促している。夜間は玄関を施錠し、日中は施錠を行っていない。	

事業所名 : あお空グループホーム 小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	所内研修で高齢者の虐待について研修している。虐待行為は勿論、それに繋がるような行動が無いかに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加しその内容を所内研修で職員に報告している。日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している入居者がいるため、制度利用について身近に感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時はゆっくり・わかりやすい言葉に置き換え説明している。不明な事には、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時意見や要望を聞く体制は出来ている。可能な事は速やかに実施し、難しい事柄は職員間や本部と協議している。	食後にコーヒーを飲みたいとの希望に応えたり、居室に他の利用者があまり来ないようにとの要望を受けて対策を講じたりしている。家族から利用者に直接会って話したいとの希望をかなえたり、帰宅願望の強い利用者家族に電話での会話を促し、入居者と家族の意見、要望等は事業所の運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、どのタイミングでも職員の意見や提案を聞くようにしている。具体化するための手段等をミーティングで話し合っている。	管理者は、日々のミーティングで職員の意見・提案を把握するよう心がけ、毎月の職員会議で具体化の方法等を話し合っている。利用者と家族の状況や要望に沿って、柔軟な支援を提供するため職員の提案を収集し、支援の仕方などを調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤めていると思う。緊急時は職員同士で勤務交換や声掛けしながら日々の業務をこなす等良好な関係が出来ている。		

事業所名 : あお空グループホーム 小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のため研修は積極的に参加する体制は出来ている、また、費用の支援制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のグループホーム協会に加入し研修会等にも参加している。管理者は、同町内の事業所や系列の事業所間で情報交換できる関係作りは出来ている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面接し困り事・不安・要望を聴き取るようにしている。利用初期は、不安を解消できるように寄り添い一人にしない工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申請や開始前の面接時に、ご家族の要望や困り事を聴き取り、計画に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネージャー、医師等の関係者から情報収集しサービスの必要性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家庭的雰囲気での介護を心掛け、仕事の分担や昔の行事等を教えられたり、共同生活する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子が分かるように、電話や広報で報告している。関係が途切れないように面会や外出が出来る限り可能になるように支援している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の危険が有るため十分に支援出来ない。ドライブの際に馴染みの場所を通る等の工夫はしている。	入居前の地域との関係性の聞き取りに努めており、近所の人や親戚が面会に訪れた時に話を引き出すようにしている。家族と共にお墓参りに行ったり、受診後に親戚を訪ねることもある。出身地でのお祭りに5人ほどで出かけ顔見知りと出会うなど、貴重な機会を逃さない支援が行われている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し食席を決めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要な場合は、情報提供や区分変更手続き等に支援をしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や、仕草・表情から意向把握に努めている。	入居者の希望や意向は日々の関りの中で把握している。郷土料理などの得意なことを通じ過去の経験に触れ、また、意向の把握が難しい場合には態度や表情から推察して対応している。入居者ごとに担当者が付いているが、全ての職員が入居者全員の希望や意向の把握に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報に目を通し生活歴等を把握したうえで、利用者様とのかかわりの中から思いを把握するようにしている。そこで分かった事は職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子の観察から心身の変化を把握するように努めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム 小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、課題とケアのあり方を話し合い介護計画に反映している。	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意向、意見を聞き、介護に反映させている。アセスメントと計画の策定は計画作成担当者が行うが、モニタリング、カンファレンスは、ミーティングの時間帯に行っている。要介護度等が変わった場合には、現状に即した介護計画への見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りで気づきや実践結果などの情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員体制や他の利用者様との関係を見ながら、変化に応じ、利用者様本位で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日課の散歩で周囲の環境等を把握する。近所の商店での買い物や理容店を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する利用者様は施設職員と看護師が付き添い、訪問診療を受ける事も可能。ご家族とかかりつけ医を受診する場合は、日ごろの様子等を口頭又は手紙で主治医に伝えるようにしている。	入居者全員が入居前からのかかりつけ医を受診している。地元の協力医療機関を受診していた8名の入居者は、入居後は同医療機関の訪問診療の受診としている。職員が受診に付き添った場合には、受診結果を家族に報告し、家族が通院に同行する場合には生活状況等を伝え、受診結果の報告を職員が受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は短時間勤務のため、業務の連携が十分とは言えない。看護師不在時の相談は携帯電話を使い常時可能になっている。		

事業所名 : あお空グループホーム 小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供書を提出している。病院との関係作りは出来ていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入所時にご家族に伝えている。利用者様の体調の報告時に、悪化した場合や今後について相談・支援している。	利用者の状態の変化により食事の形態を変え、車いすを活用し、シャワー浴を行ったりと可能な限りの支援を行っており、その都度家族に説明、話し合いを行っている。主治医との連携がうまくできており、緊急時や重度化した場合の対応もきちんと行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修を行うとともに、応急手当の方法は看護師から教わり、ケアに活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する小規模多機能センターと災害発生時の手順や避難場所の確認・持ち出し品準備をしている。避難が必要な時は協力企業と避難協定が出来ている。	年に2回の火災避難訓練(夜間含む)と年に1回の水害避難訓練を小規模多機能事業所と合同で行っている。津波、大雨のハザードマップの見直しにより避難場所を変更している。水害等の警報が出た場合には近くの企業や住民の方が避難の手伝いに来てくれたり、声掛けをしてくれる関係ができています。企業や住民、消防署などと連携し、地域の協力体制を築いている。	

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を守る事に配慮しながら、自然な声掛けで業務を行っている。職員同士で声掛けの仕方について注意しあう事もある。	管理者は、職員の言葉や語調などにより、入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねないよう気配りしている。職員同士で注意出来ない場合には、職員の言葉や態度を見聞きしながら注意、指導している。改善に向け、ミーティングで言葉遣いや関り方を話題として取り上げている。	
----	------	--	--	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム 小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の計画時や季節食材下準備の際に『やりたい・行きたい・食べたい事』を聞きながら、話しやすい環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が決定できるように時間にゆとりをもって支援するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の訪問を受け、散髪・パーマ・カラーを好みに応じて支援している。衣類は担当職員が季節に合ったものを家族と相談しながら準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理・下膳・テーブル拭き等を利用者様に手伝ってもらっている。寿司店のチラシから好きなものを選び、テイクアウトして楽しむこともある。	食事は手作りや冷凍食品を半々で提供しており、手作りの食材は近所の商店から購入している。入居者も一部の作業を手伝い、職員と共に食事を楽しんでいる。コロナ禍の影響で別々に食べていた時期もあったが、現在は再び一緒に食事している。季節の食材を活用し、特別な日には外部からの料理も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量を記録し、摂取量も確認している。刻み・ミキサー食の提供も可能。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、就寝時は入れ歯の消毒実施。必要に応じて仕上げ磨きしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がったタイミングでのトイレ誘導やポータブルトイレの設置で排泄の自立を支援している。	頻回に尿意を訴える利用者については、排泄の傾向を把握して声掛けを行うとともに、あたたかく見守っている。排泄失敗時の着替えを他の利用者に見られないように持ち運びをしたり、リハビリパンツ等の保管も他の利用者から見えないよう配慮している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム 小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を記録し、長期に便秘しないようにしている。野菜や乳製品を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は無理な誘導をしない。気分や体調に合わせて、シャワー浴・清拭・足浴に変更している、翌日に変更可能。	職員が付き添い、希望の湯温で1人での入浴をゆったりと楽しめるように支援している。入居者の中には、持参したシャンプーを使用する方もいる。お湯の温度などは、希望に応じて対応している。入浴時はくつろいだ気分で過ごせるよう、ゆっくりと対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ずつの個室になっている。居室は全て2階にあるため、静かに休息が出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・職員は薬の内容を理解できている。薬は職員が管理し随時手渡し・飲み込みを確認している。不明な事は薬剤師に相談できる関係性が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事・得意な事を理解しお手伝いしてもらっている。食後のコーヒーや朝の渋いお茶など希望に沿って提供している。ゲームや手作業、ドライブをレクリエーションに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防のため、施設周辺の散歩や菜園の見回り、買い物の付き添いなど職員の対応が可能な範囲のものになっている。要望を聞きながら、ドライブも計画している。	天気の良い日には、散歩、日光浴、裏の畑の草取りと1日6名位の利用者が外で過ごす。眼科等の受診には家族が付き添い、帰りに自宅に立ち寄ることもある。近くの道の駅や海の見える展望台にドライブしたり、職員と共に近くの商店に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額をご家族から預かり、病院・床屋・嗜好品・外食などに使えるように支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム 小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使い自由に連絡している。施設の電話を使い家族に電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な空間作りを心掛け、空調を使い温度・湿度が不快にならないようにしている。食堂には、季節の飾り物や庭先の花を飾っている。	エアコンにより快適な温度が保たれ、寒くなると朝方ファンヒーターも使用して暖かな空間を作っている。ホールの柱に桜やぶどう、クリスマスなどの飾り付けが行われ季節感を演出している。エレベーターが設置され、車椅子での移動が可能となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の食席はセットされている。ソファーや玄関先のベンチ・入り口の椅子は、思い思いに過ごせる場所である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇やテレビ・鏡(メイク道具)を持ち込み、自分だけの空間になっている。	居室にはベッド、チェストが配置されている。衣類や持ち物はクローゼットにしまい、すっきりとしている。位牌やテレビ等の持ち込みもあり、母の日にもらった花や書道作品が飾られている。夜間にポータブルトイレを使用する時は動きやすい様に配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー化している、利用者様自身が歩行器や車椅子を操作し移動可能。身体機能に応じ、トイレ側に居室を変えるなど自立できるように工夫している。		